

#### 4 - 17 近畿地方北部および中国地方東部における地震活動 (1975年1月～1976年6月)

**Seismicity in the Northern Kinki and Eastern Chugoku  
Districts, Southwest Japan. (Jan.1975 - June,1976)**

京都大学防災研究所 鳥取微小地震観測所  
Tottori Microearthquake Observatory  
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

本会報第12巻に1965年以来の微小地震の震央分布を示したが、同じ方法によって、半年毎の震央分布図を作成し、常時活動の変化を監視することとした。この地域の微小地震の時間空間分布の特徴から、大規模な地震活動前に、その地震に関係する地域の活動が系統的に変動する例が見られることもある。したがって、半年毎の分布の様子からその時の特徴を簡単に整理しておく。

a) 1975年前半(図1)

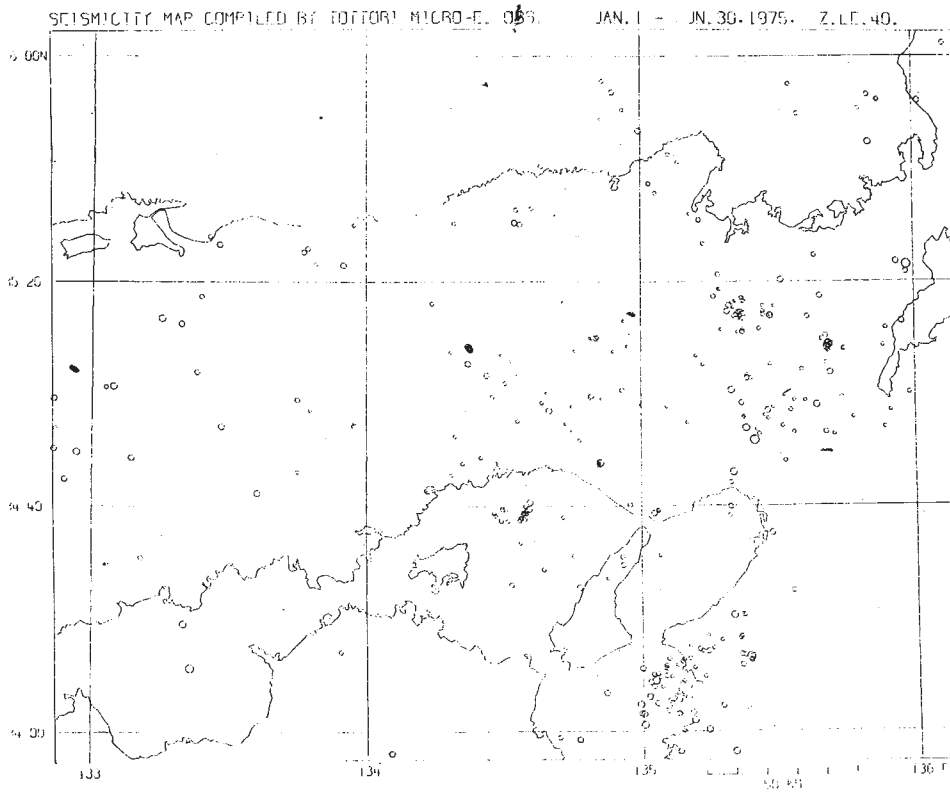
山崎断層沿いと丹後半島の主としてNW - SE方向にならぶ活動が見られる。

b) 1975年後半(図2)

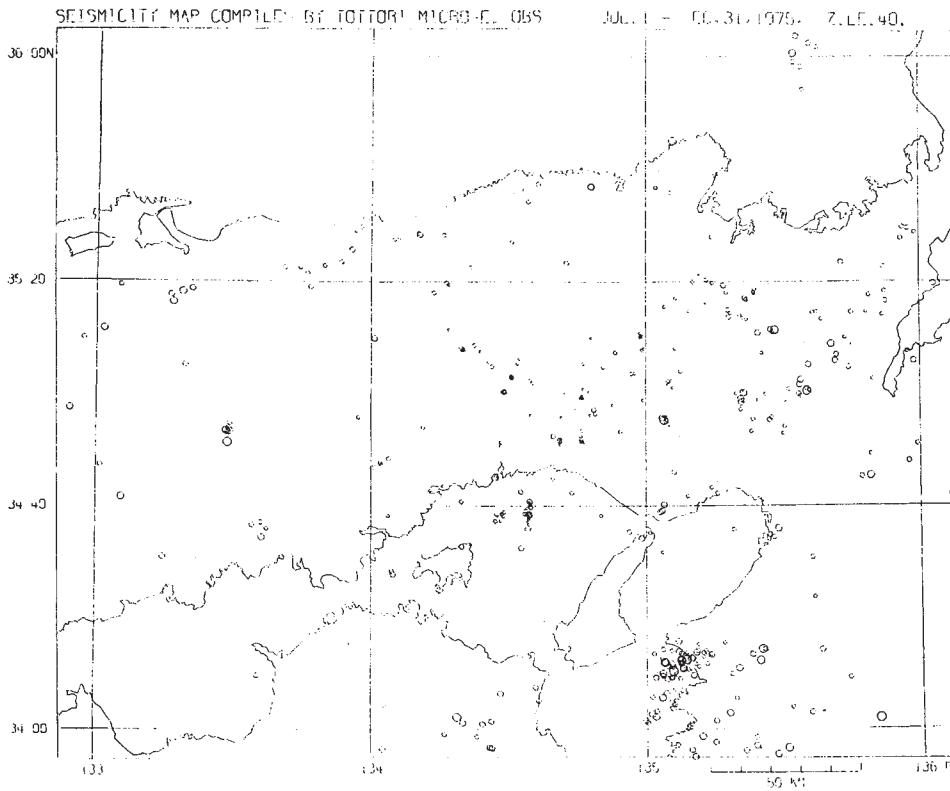
山崎断層沿いのNW - SE方向の活動に加えて、鳥取 - 倉吉、加古川 - 福知山、などSW - NE系の活動が各地に見られる。

c) 1976年前半(図3)

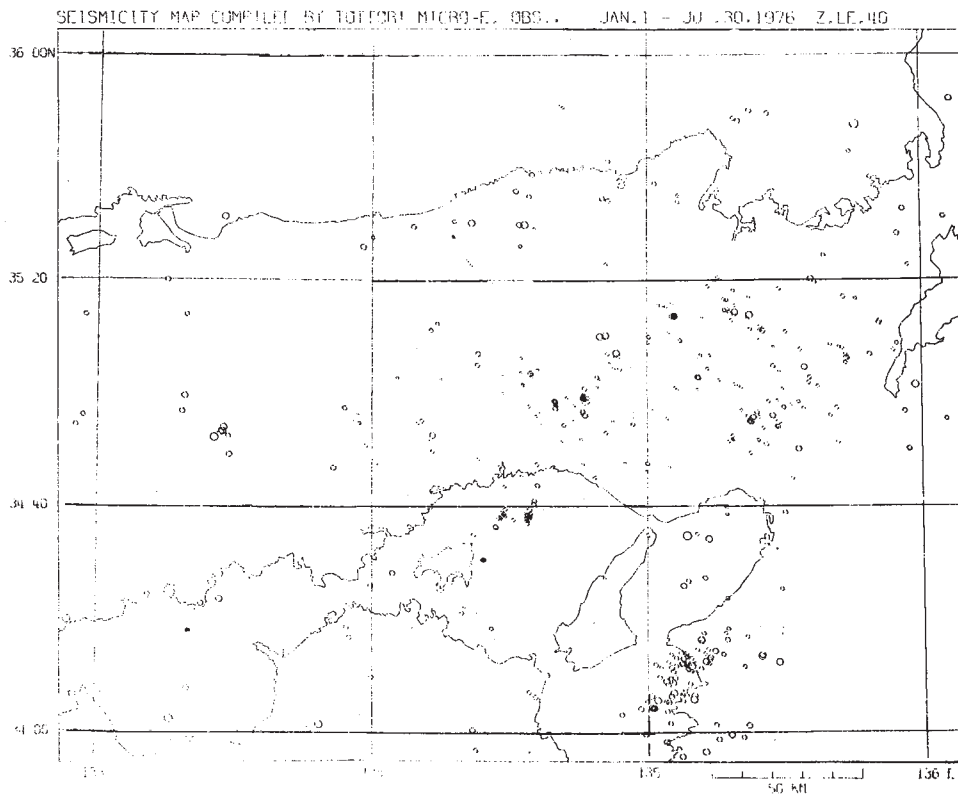
群発性の活動が加古川 - 福知山線に集中している。新見付近に比較的大きな地震が続いている。



第1図



第2図



第3図